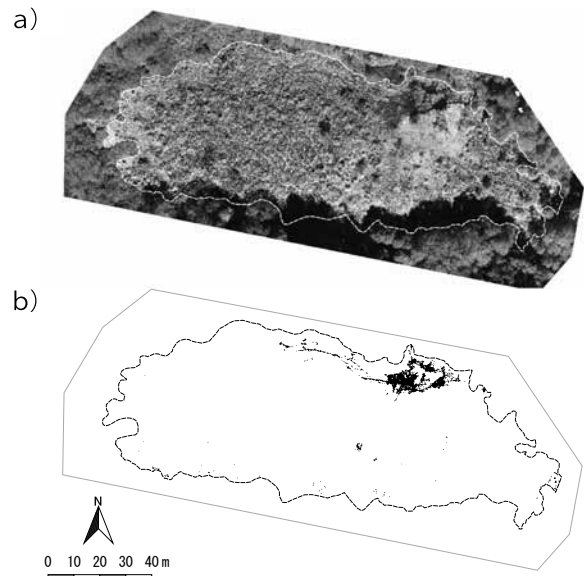


ドローンで逆谷地湿原を見てみると…

見たことのない場所や角度から自然を見る、そんな目的にドローン（UAV）はぴったりです。湿原は踏みつけに大変弱く、容易に立ち入ることができません。しかも、周囲に背の高いヨシ原が広がっていると、その向こうがどんな様子になっているのか、見てみたいけど見えない！ということもよくあります。そんなときはドローンの出番。昨年、逆谷地湿原を上空から撮影したところ、なんと、湿原を野生動物（イノシシ?）が掘り返していました…これは見たくなかった…（尾関 雅章）

ドローンで撮影した逆谷地湿原（撮影：2018年10月22日）(a)と、画像から抽出された植生攪乱域（黒塗り部）(b)。図中の破線は、およその湿原植生の範囲。



飯綱高原にカモシカが

飯綱庁舎の敷地（約15ha）に設置した自動撮影カメラに2019年1月～4月、カモシカが写りました（カメラ20台中13台に延べ15日分）。特に3月下旬からは継続して撮影されています。同じ個体がしばらく居たのかも。飯綱高原では、長くカモシカの分布が確認されませんでした。最近はときどき目撃されています。今後、カモシカがここ飯綱高原に定着するのか、注目していきたいと思います。

（陸 斉）



4月に撮影されたカモシカ

新スタッフから

地層・堆積物から過去～未来の環境を読み解く

温暖化対策班 葉田野 希（はたの のぞみ）



4月から着任しました。私の研究対象は、地層や堆積物です。野外で地層を記載したり、顕微鏡で泥や砂粒子を観察することで、数百万年前の環境（例えば気候、土壌、地形）の変動を解析してきました。こうした過去の環境変動の履歴は、現在ある環境の成り立ちを理解するのに必要なだけでなく、将来の環境変動を読み解く上で重要なデータになります。今後は、長野県の過去・現在・未来の環境を明らかにするために頑張ってください。

右) 約 1000 万年前の土壌の痕跡（白矢印）：現在、日本列島でみることのできない膨縮性に富む土壌が過去には発達していたことを記録している。

左) 約 1200 万年前（新第三紀中新世）の埋もれ木：樹幹化石が堆積物によって埋められている。当時、樹木が短期間で急激に埋積されるイベントが発生したことを示している。

